



## ラトビア共和国建国 100 年を記念して ～「ラトビア、融合の建築」展と英語サロン～

池田 裕子

ニュース欄でご紹介したように、2018 年はラトビア共和国が独立を宣言して 100 年の記念すべき年に当たります。ちょうど 100 年前、ラトビア人青年イアン・オゾリンが原田の森時代の関西学院で英語を教えていたことから、ラトビア製低反射ガラスのご寄贈以外にも、関西学院は様々な幸運に恵まれました。



まず、2 月にダツェ・トレイヤ=マスイ駐日ラトビア大使が関西学院を訪問されました。その時、ご提案を受けた「ラトビア、融合の建築」”LATVIA, ARCHITECTURE AT CONVERGENCE” 展が 5 月 7



日から 18 日まで、神戸三田キャンパスのアカデミック・コモンズで開催されました。会期中の 5 月 14 日、総合政策学部で行われた公開授業(「都市デザイン論」、加藤晃規名誉教授)には、大使も東京から駆け付けられ、ご挨拶くださいました。この日の模様は、サントレテレビの「情報スタジオ 4 時！キャッチ」で紹介されました。また、この展示に合わせ、学院史編纂室では小冊子「関西学院のラトビア人教師イアン・オゾリンをめぐって 1918～2018」を制作し、会場で配布しました。

10 月 2 日、東京の駐日ラトビア大使館で、K. G. E. S. S. 同窓会東京支部主催の英語サロン(事務局: 桑田恒彦さん、参加者は元 ESS に限らない)が開催されました。E. S. S. 同窓会東京支部は、過去に何度か各国大使館員を東京丸の内キャンパスに招き、英語サロンを開催されたことがあります。2 年ほど前、関西学院とご縁の深いラトビア大使館員にラトビアの話をしていただきたいと、相談を受けました。その時ご紹介した次席ダナ・ルダールカさんによる英語サロンは 2016 年 6 月 3 日に行われました。

ダナさんによる英語サロンが大好評だったため、次は大使にということになりました。2017 年 8 月、3 人目の駐日大使となるトレイヤ=マスイ大使が着任されました。早速、英語サロンのこととお話ししたところ、大使館での開催をご快諾くださいました。こうして、記念すべき年に、大使館での英語サロン”Latvia’s Century”の開催が実現したのです。

当日は、佐藤一雄さんの名司会のもと、大使による基調演説に続き、エギヤ・エグリーター一等書記官・次席による講演が行われました。日本とラトビアの共通点や、お祖母様の生涯とラトビアの苦難の歴史を重ね合わせた解説に引き込まれました。民族楽器クアクレが紹介されると、エリーザ・リピニャ三等書記官が実際に演奏してくださいました。時間の関係で質問は 3 人に絞られましたが、深く鋭い質問が飛び出し、理解が深まりました。

最後に、全員でラトビア建国 100 年をお祝いしました。ラトビアの名酒ブラックバルサムやラトビア風軽食をいただきながら、話は尽きませんでした。大使館という場で、何から何まで英語という日常とかけ離れた空間であったにもかかわらず、参加者一人一人を温かく包み込む雰囲気があり、創立時から続く「英語の関学」の底力を肌で感じることができました。

【学院史編纂室】



『学院史編纂室便り』第 48 号 (2018 年 11 月 30 日)

関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ケ原 1-1-155

TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462

<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/>